

# 二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～  
「夢・命・絆」

令和4年度第4号  
(通算第14号)  
会長 小林 俊之  
(文責 野手 裕之)

## 「令和4年度第4回学校運営協議会」報告

令和4年12月9日(金)に、令和4年度第4回学校運営協議会が、委員9名の出席のもとで開催されました。

今回は2月17日(金)15時30分から、後期学校評価や学校関係者評価のほかに、次年度学校運営方針についてなどを協議する予定です。

協議に先立ち、小林会長から、以下のようなあいさつがありました。

年末のお忙しいところご出席いただきありがとうございます。コロナが収まったと思ったところで、再び拡大しているところで、危惧しております。また、インフルエンザについても心配しているところです。

さて、今回の協議会では、教職員の任用についての協議となります。ここでの議論を踏まえて、教育委員会に意見書を提出させていただきますので、皆様の建設的な意見をお願いいたします。

### 次第

1. 協議  
教職員の任用について
2. 報告及び意見交換  
・ オープンスクールを振り返って  
・ 学校の様子について
3. その他



### 1. 協議

令和5年度の教職員の任用に関して協議を行いました。石田校長からの意見を踏まえて、各委員からたくさんの意見がありました。意見の一部は次のようなものです。

- 生徒の主体性を大切にしてくれる教職員。
- 授業の改善などに対して、柔軟に取り組んでくれる教職員。
- 新しい取り組みに対しても積極的に対応してくれる教職員。
- 生徒の個性を理解して一人一人に寄り添ってくれる教職員。
- 個性を大切に、きめ細かい指導のできる専門性と意欲のある教職員。
- コミュニティスクールの目的を理解し、尊重してくれる教職員。
- 地域学校協働活動を活用できる教職員。
- 地域コミュニティのための活動にも意欲的に取り組んでくれる教職員。

以上のような委員からの意見を取りまとめた意見書を12月中に市川市教育委員会に提出することになりました<sup>1</sup>。

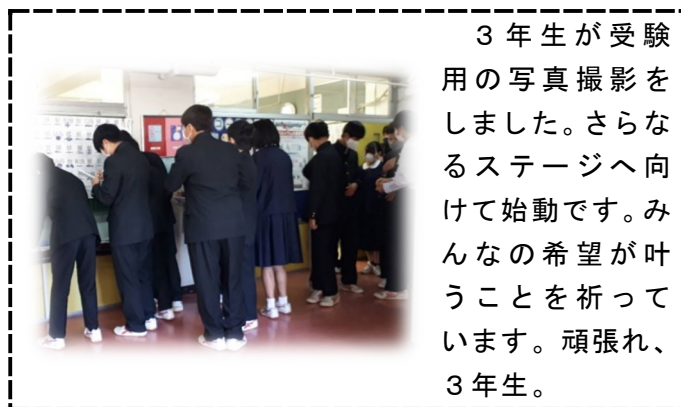
## 2. 報告及び意見交換

◎11月11日のオープンスクールを振り返って次のような意見がありました。

- ・生徒の授業を拝見して嬉しく感じる。1クラスをじっくり見てみたい。
- ・体育の授業でマスクをしている姿に、どうにかならないかと感じた。
- ・タブレットを使用した授業の種類が増えていたのに感心した。

◎学校の様子について、飯野教頭より次のような報告がありました。

- ・3年生は、受験に向けて準備を進めています。
- ・1年生と2年生は校外学習をして、1年の締めくくりに向かって学習しています。
- ・コロナ感染状況ですが、第8波の最初は少し多かったが、現在は、少なくなってきました。
- ・生徒会を中心に、23日(金)にクリスマス会を開催するための準備をしています。



## 3. その他

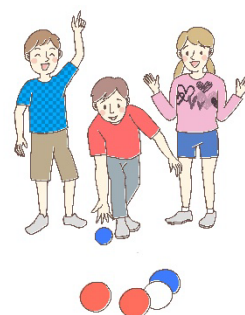
学校運営協議会で提案してきました「学校支援実践講座(交流会) (人とのかかわりあいについて考える授業)」が、1月に1年生を対象に行われることになりました。今回の交流会は、地域支援者を地域学校協働活動推進員を中心に集めることになりました。

地域支援者として、話し合いを支援してくださる方の募集に関しては改めてお知らせしますので、ぜひ、ご協力ください。

### 市川市PTA連絡協議会からのお知らせ

市川市PTA連絡協議会では、バレーボール大会を開催したり、合唱コンクール、バドミントン大会、野球大会などの協賛したりすることを通じて、PTA会員同士の親睦を深めることを推進してきました。

この度、令和5年度にポッチャ大会の開催に向けて準備をしています。チーム結成に向けて、興味がある方は、地域学校協働活動推進員の野手さん(nodeyuji@nifty.com)までご連絡ください。




<sup>1</sup> 学校運営協議会による教職員の任用に関する意見の提出は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」における「学校運営協議会は、対象学校の職員の採用その他の任用に関して教育委員会規則で定める事項について、当該職員の任命権者に対して意見を述べることができる。」(第47条の5第7項)の規定に基づいた権利になります。

## 市川市の防災について

11月9日に茨城県南部を震源地とする地震が、11月14日に三重県南東沖を震源地とする地震がありました。いずれも市川市内の震度は2でしたが、もう少し感じられたようにも感じます。前回の学校運営協議会では避難所運営ゲームを行いました。今回は市川市の防災について少しだけ取り上げたいと思います。

市川市では、大地震発生後（震度5強以上）、市内39校の小学校を地域の防災拠点として、小学校区単位で情報収集、災害対策本部や災害班との連携、避難生活支援などを行うことになっています。避難所の運営は避難者が行うこととなりますが、震度5強の地震があった場合には、小学校に防災拠点要員（市職員）と防災拠点協議会委員（地域住民）が集まって、避難所運営の支援を行うことになっています。

市川市防災拠点協議会 

もしも、大地震がおこったら・・・

### 小学校区防災拠点協議会

過去の地震では・・・  
 ●学校で多くの方が避難生活をおくり、情報収集、水・食料の供給が行われた。  
 ●学校では日ごろから子どもを介して顔が見える関係があり、助け合いが円滑に行うことができた。

このように災害から・・・

#### 小学校区防災拠点

大地震発生後、小学校区(市内39校)を単位として地域の情報収集、災害対策本部との連携、避難生活支援などの応急対策活動を行います。

☆震度5強以上で、小学校区に指定された市職員(小学校区防災拠点要員)が指定された小学校に自動集集し、情報収集を行います。  
 ※小学校以外の避難所(中学校・公民館など)は必要に応じて順次開設されます。

#### 小学校区防災拠点協議会

地域住民で構成され、学校職員や市職員と共に、平常時は減災に関する会議(年3回程度)や、避難所運営訓練<sup>※</sup>を行い、災害時は主に避難所運営支援などを行う小学校区防災拠点を地域から支える組織です。  
 ※避難所の運営は自治体主催で行うとされていますが、避難所の運営について日頃から地域で話し合い、避難所運営訓練を行うことが重要です。

#### 平常時

防災会議(年3回程度)や避難所運営訓練などを行います。

#### 災害時

可能な範囲で参集し、学校や市職員と協力して避難所運営支援などを行います。

<構成員>  
 自治会(町会)、PTA、民生委員、消防団など

#### 小学校区防災拠点の構成

小学校区防災拠点要員(市職員) 情報管理者(学校職員)

災害が発生した時は、みんなでお助けあおう!

防災会議の様子

問い合わせ先: 市川市地震防災課 TEL:047-704-0085

## P 連会長会について

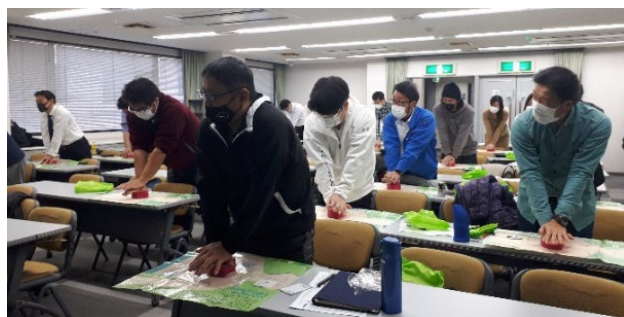
12月10日(土)に市川市PTA連絡協議会の会長会が開催されました。今回は、平成31年3月7日の会長会でも実施しました「PUSHコース講習会」が行われました。

「PUSH」は、「胸をPUSH」、「AEDのスイッチをPUSH」、「あなた自身をPUSH」という3つの「PUSH」を意味しています。



「PUSHコース」は、心肺蘇生の中でも最も重要な「胸骨圧迫とAEDの使い方」や「誰かが倒れた時に、声をかける勇気」を、できるだけ多くの人に伝えるために、短時間で効率的に学べるよう工夫した心肺蘇生の講習会です。

詳しい内容は大阪ライフサポート協会のホームページ(右QRコード)をご覧ください。



市川市PTA連絡協議会では、このような命を大切にする活動を推進しており、当講習会を開催したい方は、市川市PTA連絡協議会事務局員の野手さん(nodeyuji@nifty.com)まで、お問い合わせください。



## 自己肯定感（自尊心）について

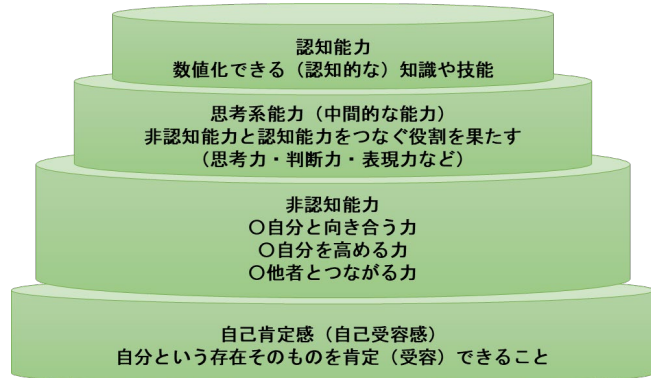
今回は、学校運営協議会でも度々課題となっている自己肯定感について取り上げます。

（日本子ども学会の理事長や日本小児神経学会の名誉会員などを歴任している）榊原洋一お茶の水女子大学名誉教授が、「子どもがよりよい人生を送るためには、IQや偏差値に代表されるような認知能力だけでなく、感情や情緒からくる非認知能力が最終的に大きな働きをします。〔中略〕人生をより豊かなものにするために必要な「生きる力」を獲得するには非認知能力がカギを握っています。〔中略〕子どもの能力を伸ばすうえで、保護者ができることはいくつかあります。それは、子どもをたくさんほめること。そして、好きなことを、とことんやらせてあげることです。そうすることで子どもの自己肯定感が高まったり、物事を達成する意欲や粘り強さが養えたりと、結果的に非認知能力を育むサポートになります。」<sup>4</sup>と述べているように、自己肯定感は、「生きる力」ないしは「非認知能力」の基盤として重要であるといえます（図表1も参照）。

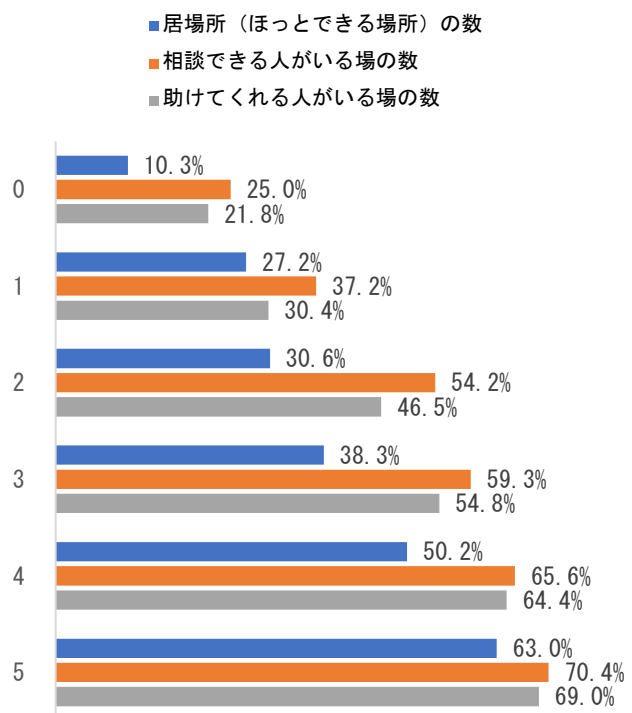
そして、内閣府「子供・若者白書（令和4年版）」（図表2）にみられるように、ほっとできる場所、相談できる人がいる場所、助けてくれる人がいる場所の数が多いほど、自己肯定感が高いという結果となっています。

**このようなことから、多くの大人が、普段の見守り活動などを通じて、また、学校や地域でのイベントなどを通じて、子どもたちにかかわっていくことは、とても大切なことだと思います。**

図表1 自己肯定感から認知能力までの全体像<sup>2</sup>



図表2 自己肯定感と場所の数<sup>3</sup>



写真は、先日行われた「真間小まつり」と「すがのフェスタ」の様子です。コロナ禍前と同じようにはできない部分もありましたが、たくさんの大人が子どもたちの笑顔のために参加し、子どもたちと交流しました。徐々にこうした活動も戻って欲しいと思いました。



<sup>2</sup> 中山芳一著「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」東京書籍、2018年、118頁。

<sup>3</sup> 内閣府「子供・若者白書（令和4年版）」を参照して作成。

<sup>4</sup> <https://kosodatemap.gakken.jp/learning/intellect/17021/>